

2・2 徳島大学における利益相反マネジメント体制

利益相反マネジメントは、教員の利益相反状態を総合的に把握し、教員の産学官連携活動を安全な状況下で活発な活動ができるよう組織が責任をもって行うものである。マネジメントは、利益相反管理担当者（利益相反アドバイザー、利益相反コーディネータ等）が日常的又は定期的に行い、利益相反マネジメントレベルが高い状態にならない内に組織として注意・指導する必要がある。マネジメントには、日常的な相談による方法、定期的な申告書に基づく方法および兼業等産学官連携活動開始時の申請書による方法がある。これらのマネジメント方法を組み合わせて、想定される小さな利益相反状態から、マネジメントレベルの高い利益相反状態に陥る状況を把握し、関係する教員と常日頃から話し合うことが利益相反マネジメントの基本となる。

徳島大学における利益相反マネジメントの方法を図2に示す。産学官連携活動における利益相反状態の把握には、自己申告書の提出、兼業申請、日常的な相談窓口の設置を通じて総合的な判断を行っている。マネジメントの方針は、常にマネジメントレベルの低い状態で教員に利益相反状態を認識してもらうため、利益相反コーディネータおよび利益相反アドバイザーを配置して気軽な相談やヒアリングができる体制を敷いている。なお、ヒアリングには、事務職員（産学連携・研究推進課課長補佐、人事課課長補佐）の参加や、各学部の事情を考慮した判断を行うため各学部の利益相反コーディネータ（教員）も参加して実施している。

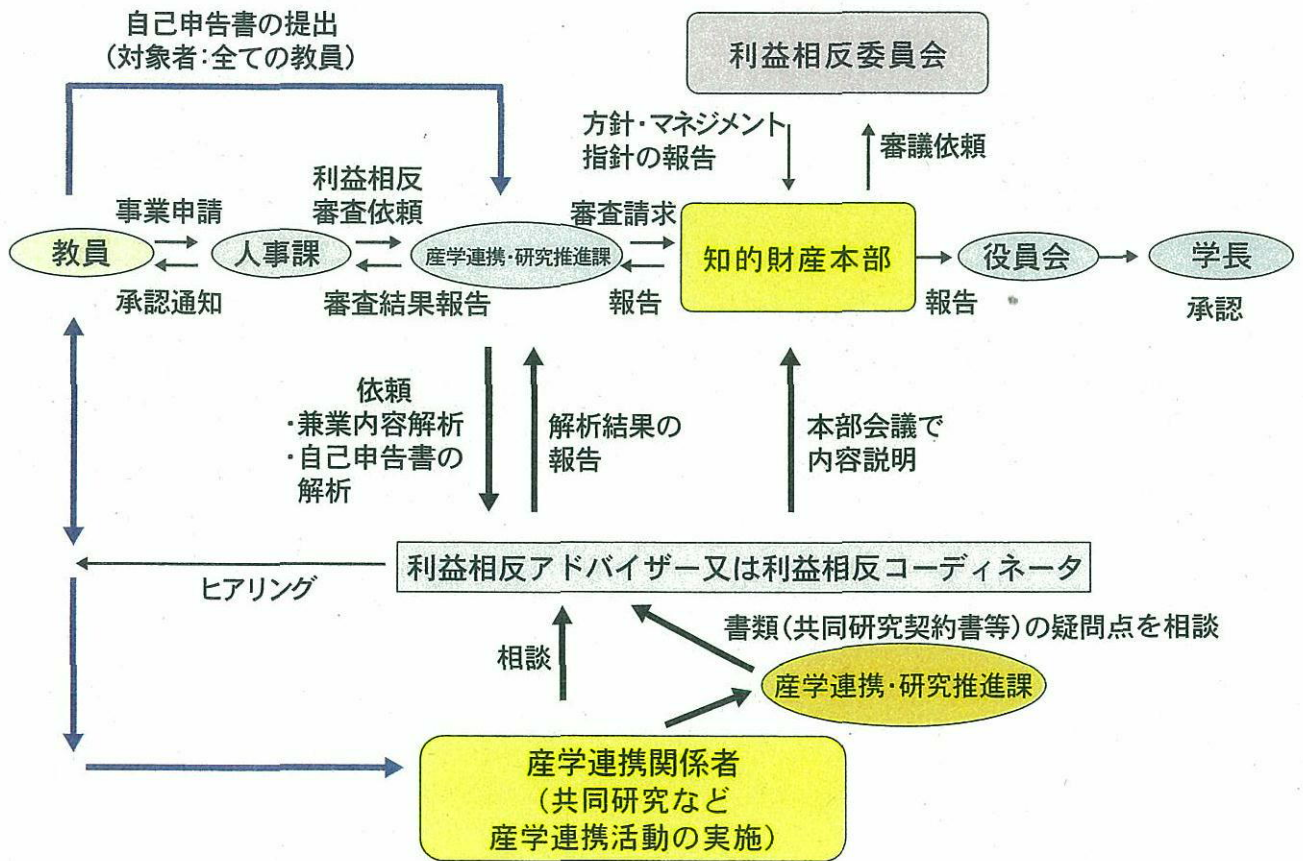


図2 徳島大学における利益相反マネジメントの方法